



## 2020年東京オリンピック・パラリンピックに係る 救急・災害医療体制を検討する学術連合体

The Academic Consortium on Emergency Medical Service and Disaster Medical Response Plan  
during the Tokyo Olympic and Paralympic Games in 2020

# 大規模イベントの医療・救護体制における 多機関連携センターの必要性についての提案

平成30年4月

## 1. はじめに

大規模イベント開催時には、集団規模の大きさや同時多点の会場設置に伴い、運用に係る多岐にわたる組織が必要である。したがって運用に係る情報の集約化に基づく、迅速な組織間情報共有が実現できる体制が求められる。また、開催中のイベント会場内あるいは周辺での多数傷病者発生時には、被災状況・供給資源の情報を関連組織が迅速に共有できる体制が不可欠である。米国は、多数傷病者発生時に際して、危機管理体制の一環として当該の州全体にわたる多機関連携センター（Multi-agency coordination center：MAC）を計画的かつ組織的な方法で事前に確立するためのガイドラインを策定している。本邦における大規模イベント開催時においても、同様の機能を有する多機関連携センターをイベント開催前から設置し、開催中に継続的に運用することが望まれる。

## 2. 機能

多機関連携センターは、イベントに関連する機関や組織の情報を集約し、緊急対応すべき項目の抽出とその優先順位の決定や希少資源の再分配を行なうことを支援する。

- 1) 各機関からの状況情報の把握
- 2) 各事象の優先順位付け
- 3) 資源の再分配
- 4) 情報の共有
- 5) 意思決定機関との調整

## 3. 組織構成（例）

消防、警察、医療従事者（当該地域病院団体、医師会ほか）、行政（救急・災害医療担当部署、気象関係）、大会関係者など

## 4. センターの組織内で必要な役割

- 1) コーディネーター
- 2) 連絡担当者
- 3) 広報担当者
- 4) アドバイザー（多機関連携グループの運用経験を有する者が担うのが望ましい）
- 5) 計画と情報部門のコーディネーター
- 6) 状況情報部門リーダー（各機関からの状況に関する情報の集約を行う）
- 7) 資源情報部門リーダー（不足する資源に関する情報の集約を行う）